

# この子に教育は無理！

と思っていました。でも……

## 音感かるたで手帳が返納できました。

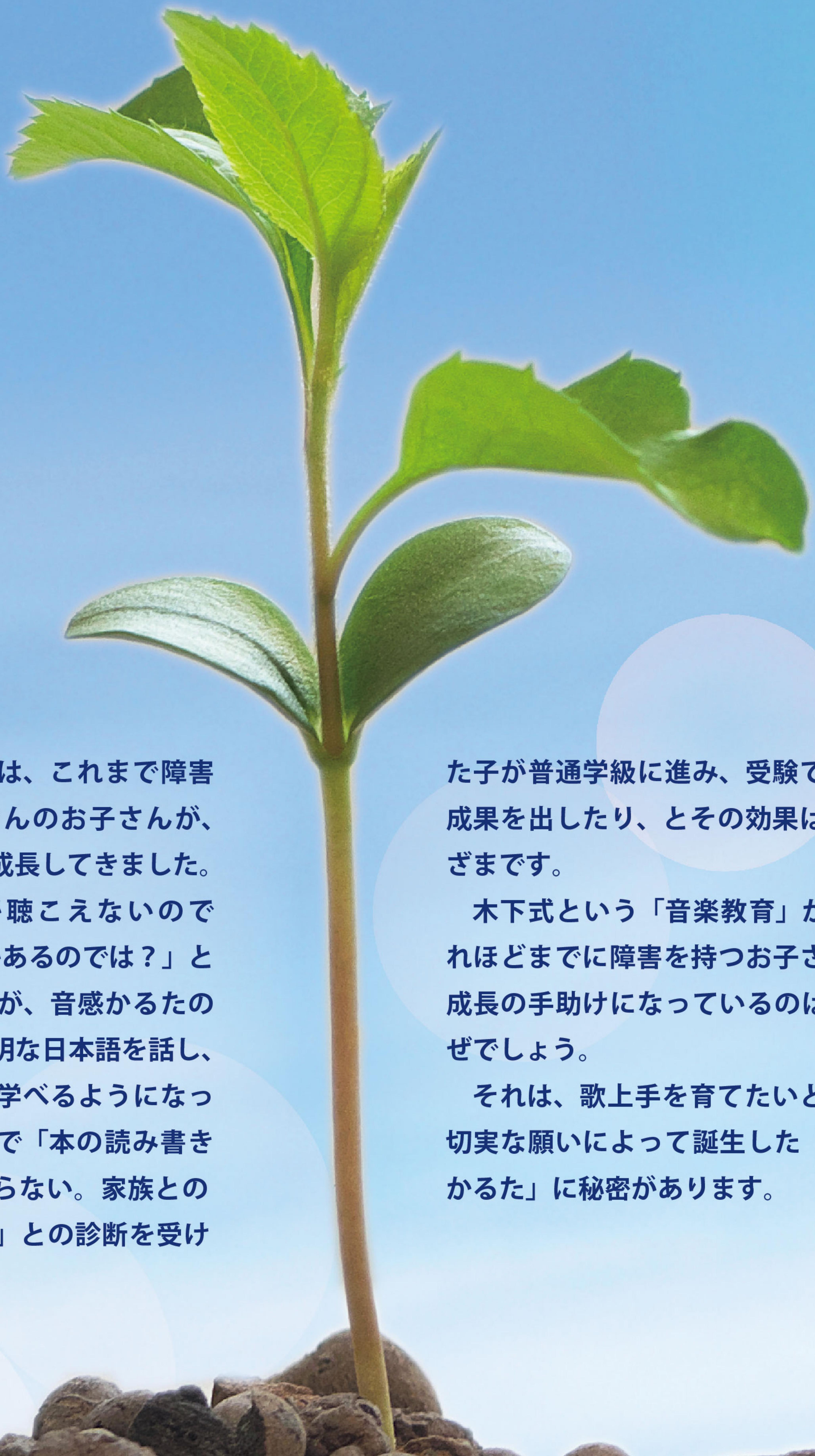
木下音感楽院では、これまで障害特性をもつたくさんのお子さんが、音感教育を通して成長してきました。

保育園で「耳が聴こえないので  
は？」「発達障害があるのでは？」と  
疑われたお子さんが、音感かるたの  
訓練を受けて、鮮明な日本語を話し、  
いろいろなことを学べるようになっ  
たり、3歳児検診で「本の読み書き  
もできるようにならない。家族との  
意思疎通も難しい」との診断を受け

た子が普通学級に進み、受験でよい  
成果を出したり、とその効果はさま  
ざまであります。

木下式という「音楽教育」が、そ  
れほどまでに障害を持つお子さんの  
成長の手助けになっているのは、な  
ぜでしょう。

それは、歌上手を育てたいという  
切実な願いによって誕生した「音感  
かるた」に秘密があります。



# 療育ではない教育を。一木下音感楽院の発達支援一

木下式の「音感かるたの連合学習」は、

- ・ゆっくりと丁寧に母音・子音を意識して話す
- ・言葉をはっきりと鮮明に話す
- ・何度も同じことを繰り返す
- ・短く端的に、記憶させたい言葉を強調する
- ・「音感かるた」のイラストによって視覚的手がかりを  
与えながら、聴覚に刺激を与える
- ・はじまりと終わりがわかりやすい

という特長があります。

幼い子どもや障害がある子どもは、聞く力、聴きとる力が未熟です。そのため、私たち大人は、ゆっくり丁寧に、はっきりと話し、受け止めやすくする必要があります。

また、幼い子どもは記憶するのは早いですが、忘れるのもアッという間。ですから、何度も同じことを反復して、定着するまで継続することが最良です。特に、障害を持つ子には、たくさんの言葉を一度に理解したり、受け止めることができにくい特性があります。それを反復によって乗り越えさせ、自信をもって物事に向き合う力につけるのです。

私たち大人には当然に思える「耳で聴いたことや目で見たことを脳裏で記憶しつづける能力（把持力）」は幼児期に訓練しないと発達しません。これは、発達障害を持つ子、その疑いがある子にも共通することです。そのため、訓練の開始直後は、短くわかりやすい文章で説明をし、幼児たちが楽しく、自信をもって学べるように配慮しています。

かわいいイラストの「音感かるた」を見ながらその説明を聴く訓練は、聴覚を刺激しつつ、永続性のある視覚刺激を与え、記憶を確実なものにしながら、歌上手を育てます。合わせて、木下式は、5分から10分の短い課題がたくさん用意されているため、飽きることなく、そのときどき、自分がなにをすべきか、わかりやすいのです。

これらが、木下式が乳幼児期の子どもたち、そして、障害を持つ子、障害の疑いがある子の最初の教育に適している理由なのです。

## まずは授業を体験してみませんか。

### 木下音感楽院

〒161-0034 新宿区上落合 2-28-8 TEL03-3367-2394